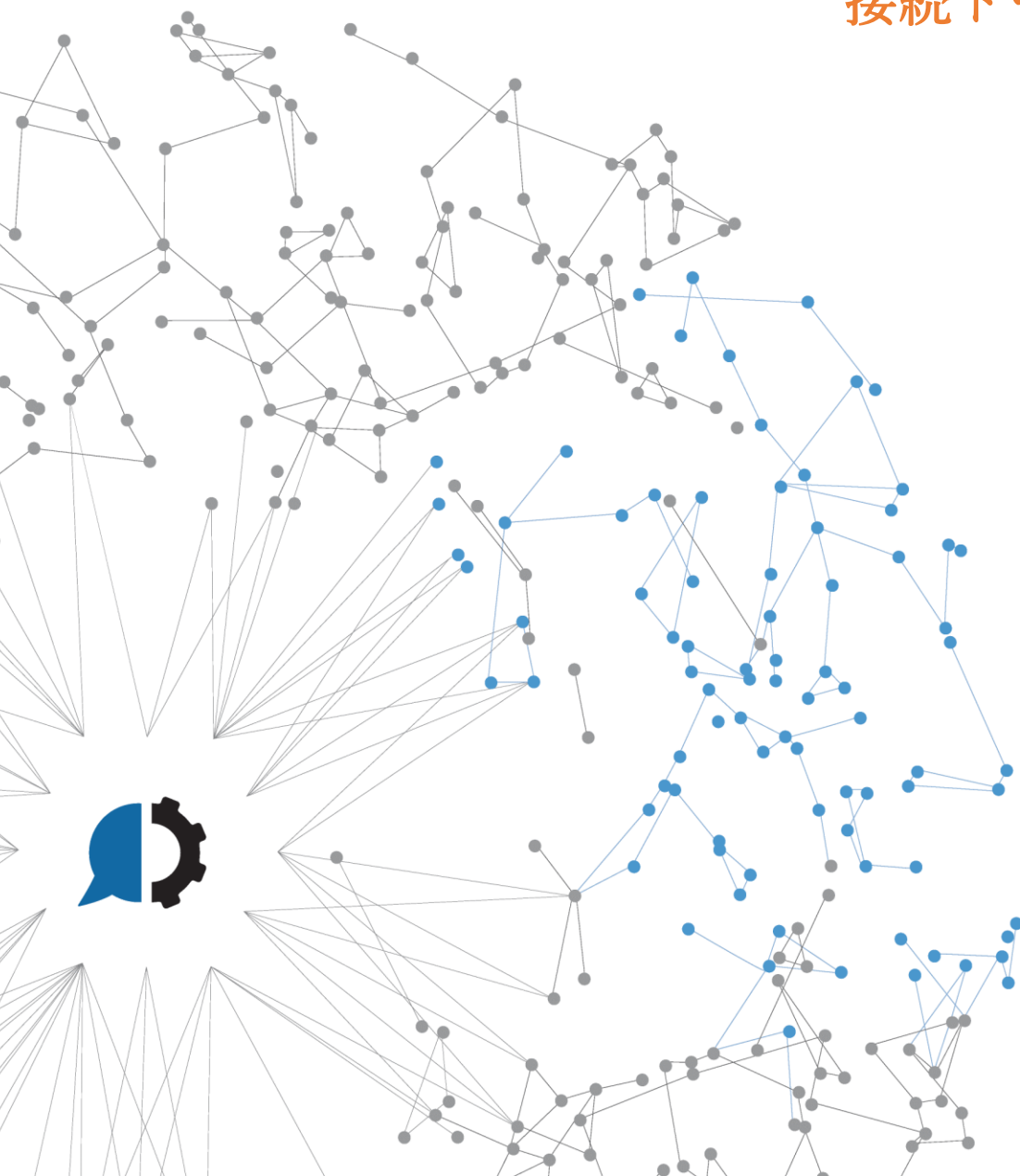




# HUBSPOT BOT

## 接続トークンの生成





## 内容

概要 .....	3
前提条件 .....	4
AUTOMATE タスクをインポートする方法 .....	8
HUBSPOT BOT – 接続トークンの生成 実行する方法 .....	9



## 概要

この How to ガイドでは、「HubSpot - 接続トークンの生成」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに、AutoMate に任せて、ロボットによるプロセスオートメーションで IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate は手作業を代行することで、繰り返し作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

「HubSpot - 接続トークンの生成」は、HubSpot REST API をベースにしています。これは、<https://api.hubapi.com/oauth/v1/token> にリクエストする OAuth2 アクセストークンを生成します。初回のトークン生成には、“authorization\_code”タイプの“grant\_type”パラメータを使用します。ボットの最初の実行でトークンが生成されると、次の実行でトークンをリフレッシュするために、“grant\_type”に“refresh\_token”を指定します。HubSpot のトークンは、デフォルトで6時間ごとに有効期限が切れることを覚えておいてください。

詳細については、「前提条件」と「HUBSPOT BOT - 接続トークンの生成 の実行方法」のセクションを確認してください。

このボットを使って、トークンを毎日生成し、HubSpot のあらゆるボットを連携させることができます。



## 前提条件

- **AutoMate:** Hubspot Bot が動作するためには、AutoMate ソフトウェアが必要です。最低限サポートされているバージョンは以下の通りです。
  - [AutoMate Ultimate 11.2](#)
  - [AutoMate Plus 11.2](#)
  - [AutoMate Desktop 11.2](#)
- **AutoMate Markup Language ファイル (.AML):** Hubspot Bot タスクのステップを含む、AutoMate で使用される主要なファイルタイプです。
- **HubSpot:** 必要となる最小要件は、以下の通りです。
  - **HubSpot REST API を有効にする:** デフォルトで有効になっています。
  - **HubSpot REST API – 接続されたアプリの作成、OAuth を有効に設定:** HubSpot のドキュメントで、接続アプリケーションの作成方法についてはこの [リンク](#) で、OAuth の設定方法についてはこの [リンク](#) で確認することができます。

接続アプリを作成し設定すると、次の図のように HubSpot に表示されます（この例ではアプリ名を「Automate Connected」としています）：



## Settings

Account defaults

Contacts & companies

Conversations ▾

Cookie policy

Domains & URLs

Import & export

Integrations ▾

API key

Connected apps

### Connected apps

Search for an app



Visit App Marketplace



Automate Connected

More ▾

前のリンクで提供された1つずつリストに従って接続されたアプリケーションの設定の間に、このボットを設定するために使用される次の情報を取得します:



## Auth settings

These settings determine how your app connects to HubSpot and what data it has permission to access.

### Recommended: Subscribe to contact privacy deletion events

It looks like your app requires a scope related to contact records. There may be times when you need to delete contact data in your system to follow privacy laws and regulations. It's recommended that you listen for this event in HubSpot so you can take proper action in response.

[Read the webhook docs](#)

[Subscribe to this event](#)

#### App ID

This is your app's unique ID. You'll need it to make certain API calls.

215252

Copy

#### Client ID

This ID is unique to your app and is used for initiating OAuth.

6961f56b-4fca-47b5-a8fa-9d60363d16e9

Copy

#### Client secret

Used to establish and refresh OAuth authentication.

\*\*\*\*\*

[Show](#) | [Copy](#)

#### OAuth URL

A user will need this URL to connect your app. The URL is based on your app's client credentials, default redirect URL, and scopes configuration.

[Learn more about OAuth](#)

[https://app.hubspot.com/oauth/authorize?](https://app.hubspot.com/oauth/authorize?client_id=)  &

[redirect\\_uri=http://localhost&scope=contacts%20repo](#)

[Copy full URL](#)

#### Redirect URL

[http://](http://localhost)

いずれかのステップを実行することで、お客様またはお客様の HubSpot 管理者が、最初のボット実行（ステップ 2：HubSpot がユーザーに同意を求める）でトークン取得に使用する認証コードを取得できることに留意してください。



- **HubSpot 接続アプリケーションのスコープ:** 接続アプリケーションの設定時に、必要なスコープを選択することが重要です。これにより、他の AutoMate HubSpot ボットを実行する際に、必要な API の実行を許可するかしないかを決定します。これは基本的に API へのセキュリティアクセスを設定する方法です。例えば、次のものを選択するように設定することができます:

**Scopes** ⓘ

contacts × reports × business-intelligence × oauth × tickets × ▼

REQUIRED PERMISSIONS	DETAILS
Contacts contacts	This includes prospects and lists.
Reports reports	This includes sources, page performance, keywords, assists, competitors, and events.
Read from Business Intelligence API business-intelligence	This includes endpoints that sit on top of sources and email.
Basic OAuth functionality oauth	The basic scope required for OAuth.
Tickets tickets	This includes access to tickets.



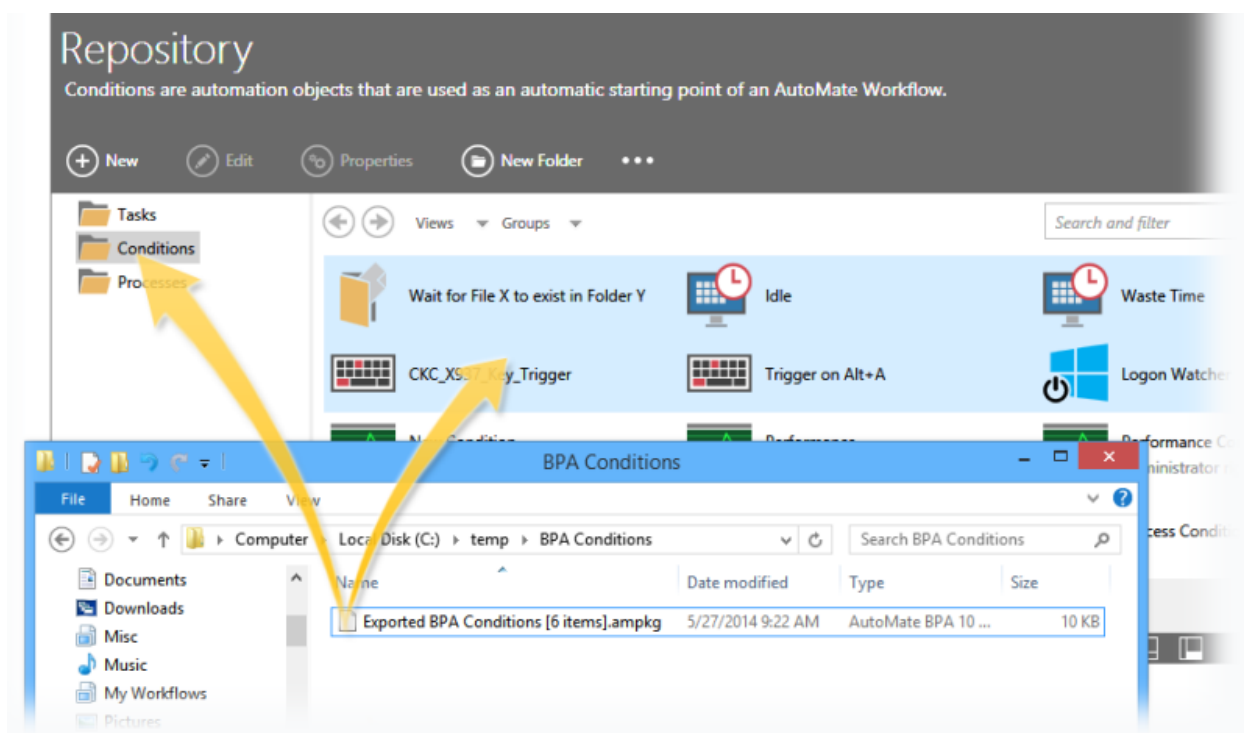


## AUTOMATE タスクをインポートする方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでリポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソール(SMC)から、[リポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。





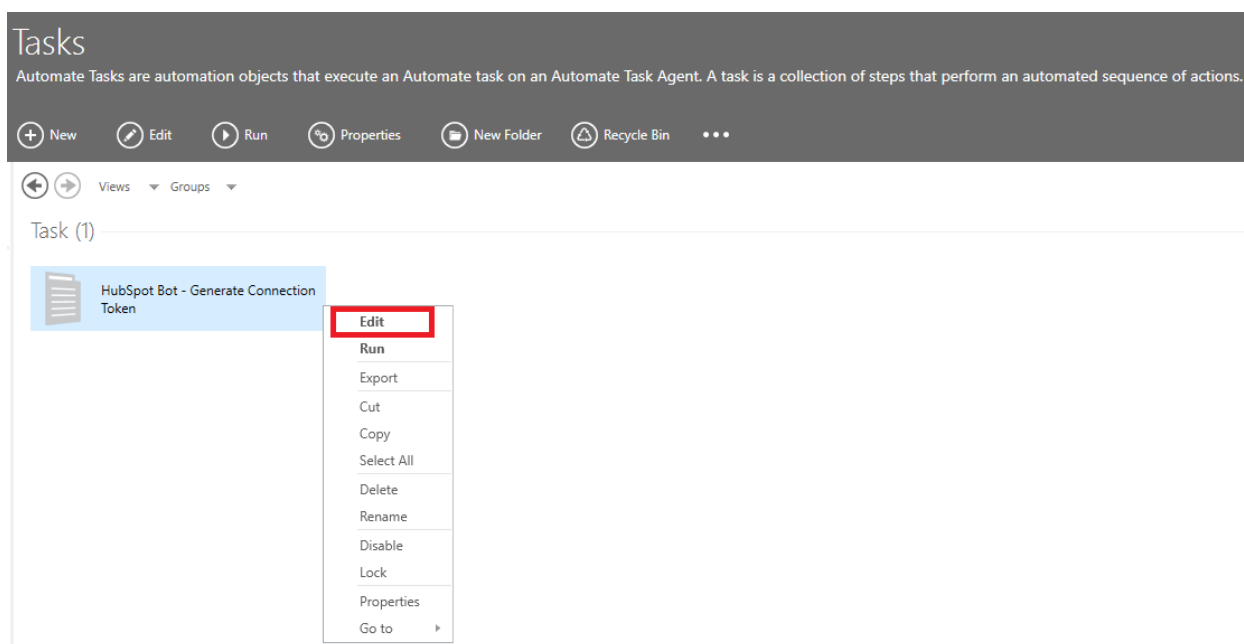


## HUBSPOT BOT – 接続トークンの生成 を実行する方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、**編集**を選択して編集します。



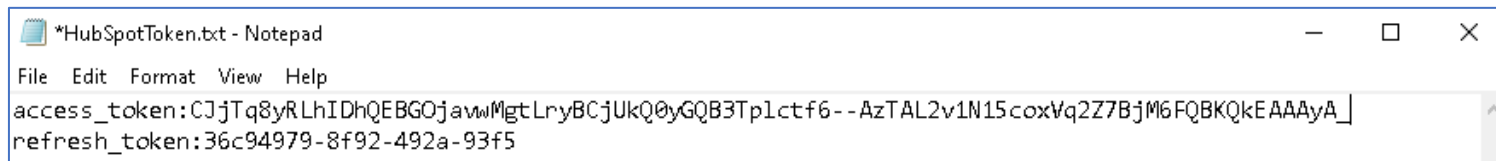
ステップ 2 からは、希望する出力に応じて次の変数を編集してください。

- **var\_HubSpotTokenURL**: HubSpot トークン生成のリクエストに使用する URL です。HubSpot が提供するデフォルトの URL に設定されています。: **<https://api.hubapi.com/oauth/v1/token>**
- **var\_HubSpotAuthCode**: これは、HubSpot が提供する追々の手順「ステップ2: HubSpot がユーザーに同意を求めるプロンプトを表示」で取得される認証コードです。
- **var\_HubSpotRedirectUrl**: ユーザーのリダイレクト先となる URL です。HubSpot の情報を確認してください。デフォルトでは、次のように設定されています: **<http://localhost>**
- **var\_HubSpotClient\_Id**: この ID はアプリに固有のもので、OAuth を開始するために使用されます。



- **var\_HubSpotClientSecret:** 作成した *HubSpot 接続アプリ* で生成されたクライアントシークレットになります。OAuth 認証の確立とリフレッシュに使用します。
- **var\_HubSpotFileTokenOutput:** トークンおよびトークンリフレッシュ文字列が生成された txt ファイルをボットに作成させるためのパスとファイル名になります。 デフォルト:  
**C:\Automate\HubSpotToken.txt**

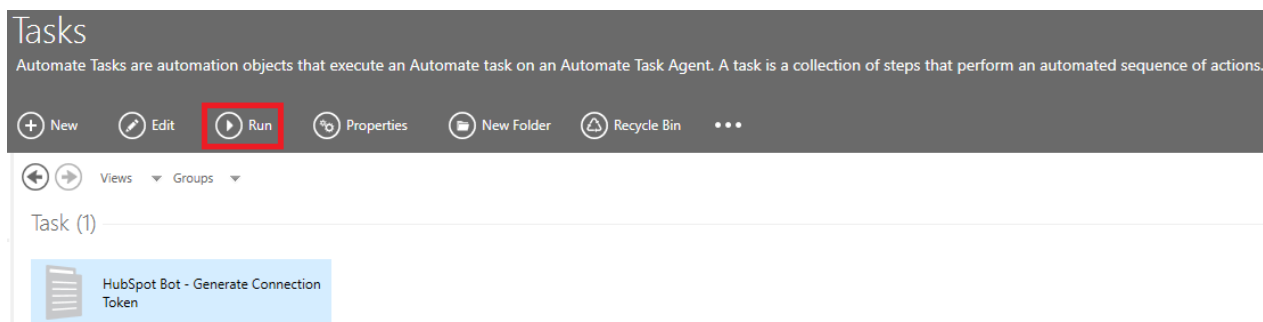
以下は、生成されるテキストファイルの内容の一例です。:



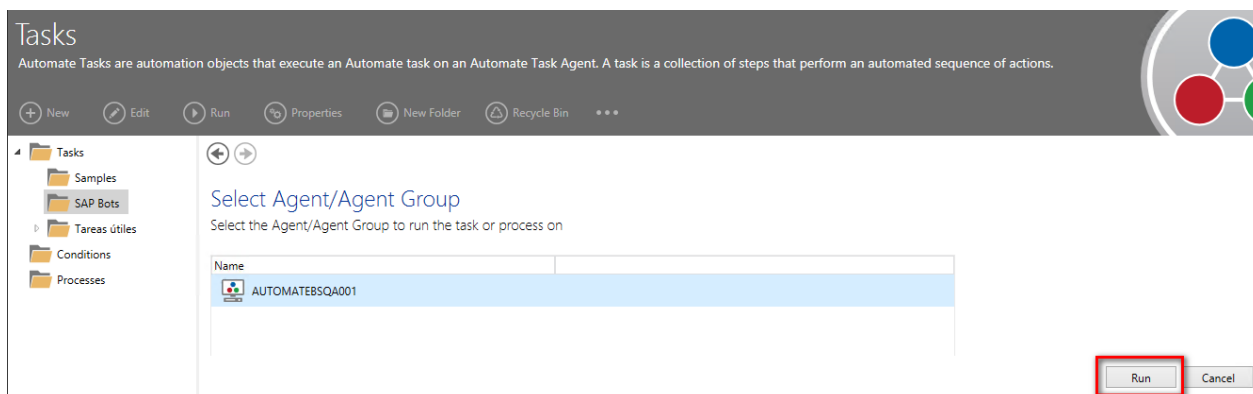
**重要:** 認証コードを変更した場合、最初のボット実行前にこのファイルを削除する必要があります。

タスクを **保存して閉じます**。

タスクを選択し **実行** をクリックします。



**Agent** を選択し、再度「**実行**」をクリックします。





## 付録A-トラブルシューティング

- ログ: ボットの各反復は、トラブルシューティングのためにログファイルを作成します。ログファイルは、C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>の下にあります。デフォルトでは、タスク名は「*HubSpot Bot - Generate Connection Token*」です。



### About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people